

平成19年度
一般会計予算70億4000万円(対前年比△2.1%)
賛成多数で可決

●19年度予算は、3分科会で審議のあと3月13日に
予算特別委員会(議長を除く17名)で全10会計につ
いて徹底審査しました。

第二期の初年度

6,476万円(対前年比▲0.8%)



平成19年度各会計当初予算		予 算 額	
会 計 名			
一 般 会 計		70億4,000万円	
特 別 会 計	十 王 財 産 区	45万円	
	下 水 道	6億9,945万円	
	国民健康保険	14億3,758万円	
	老 人 保 健	17億6,215万円	
	農業集落排水	9,839万円	
	介 護 保 険	13億7,413万円	
企 業 会 計	水 道	収益的支出	3億3,993万円
		資本的支出	1億5,077万円
	病 院	収益的支出	11億7,000万円
		資本的支出	1億4,731万円
	訪問看護ステーション	収益的支出	4,460万円
総 額		142億6,476万円	

※万円未満は端数を整理しています。

討論

賛成

反対

賛成討論 今野正明 議員

平成19年度予算は自然、文化を生かし地域が輝く町を展望し、第4次白鷹町総合計画の仕上げの時期と位置づけ、第2期地方分権改革をふまえつつ、町民誰もが、住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることのできる社会を、知恵と工夫と参加によって、築き上げていくとしております。

若者定住、子育て支援、産業の振興、次世代に引き継ぐ環境・文化の創造、交流の促進を町民との協働で展開する姿は、時代の要請であり大いに期待します。

とりわけ鮎貝まちづくり事業は、ハード面はもとより運営面に力点を置く必要があります。行財政改革の成果として、累積債務が100億円を切り、今後も確実に減少となることなどは、好ましい姿です。

町民の負託にこたえる自治体経営を切望するとともに、最上川を中心とする地域景観をいかした歴史と生活文化の再生に向け町民の自信と誇りにつながるまちづくりが、確立されることを願います。

反対討論 佐竹典明 議員

政府による負担増と各種給付の切り下げが、本町でも年金生活者や不安定雇用の労働者の生活を直撃しています。

県の高校再編計画には、荒砥高校の魅力づくりだけでは対応できません。再編の見直しを申し入れることが必要です。

文化交流センターの事業を進めるよりは、福祉、医療、介護などの維持向上を図るべきです。

農業については、一部の担い手だけを対象とした縮小再編でなく、地域の集落営農が成り立つ農業施策を望みます。

消費税を各種料金に転嫁するのは、納得できません。まちづくり推進課の設置は、協働のまちづくりの理念から賛成できません。独立した行政委員会である教育委員会の組織機構への対応も適切さを欠いているものです。

賛成議員(14人)

土方俊男議員
五十嵐政司議員
船山 仁議員
菅 祐二議員
岡田 明議員
青木彰榮議員
加藤秀人議員
衣袋捷二議員
菅原捷治議員
今野正明議員
遠藤幸一議員
大滝 賢議員
守谷丹吾議員
関千鶴子議員

反対議員(3人)

本木勝利議員
佐竹典明議員
佐藤誠七議員